

四国の森を知る

増刊号 (No.35) Nov 2020

「四国の森を知る」増刊号をお届けします

支所長 小林 功



森林総合研究所四国支所では、毎年秋に「四国支所一般公開」を開催し、地域のみなさまに支所の研究成果や活動内容を公開していますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とさせていただきます。楽しみにして下さっている皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいです。そこで今回、当支所の広報誌「四国の森を知る」の増刊号をみなさまにお届けすることにしました。

当支所の研究者がそれぞれの専門分野から、いわば「森の豆知識」を提供して作りました。例年なら一般公開の「実験林案内」でお話しするところですが、今年はそれを誌上でお届けしようという趣旨です。森の中を歩いている気持ちで楽しんでいただければ幸いです。新型コロナウイルスはまだまだ予断を許さない状況が続いていますが、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

森林総合研究所の樹木園と実験林について 産学官民連携推進調整監 佐藤 重穂

森林総合研究所は茨城県つくば市に主たる研究所が所在しており、北海道から九州までの6か所に支所等が配置されていますが、地域に応じた森林や樹種について研究するため、地域ごとに実験林や樹木園があります。その主なものを紹介すると、つくば市には2か所の樹木園があり、合わせて6.4 haで630種余りの樹木が植栽されています。北海道支所（札幌市）には樹木園と実験林を合わせて約153 haあり、トドマツやエゾマツ、カンバ類などの北方樹種を中心に植栽されています。多摩森林科学園（東京都八王子市）には樹木園とサクラ保存林の合計では約15haがあり、日本全国のサクラの種や栽培品種があわせて約500種類植えられています。

四国支所（高知市）の樹木園と実験林は合計4.6 haで、樹木園には四国産の郷土樹種を中心に

植栽され、実験林には林業樹種としてスギ、ヒノキなどが植えられているほか、99科321種の野生植物が育成しています。

本誌では四国支所の樹木園や実験林で見られるものの中から、いくつかの話題をピックアップしてご紹介します。



四国支所実験林のアラカシの堅果（ドングリ）

